

# 経済 TOPICS

No. 227

(2024年1月18日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 輸出が弱めの動きとなるなか、生産や消費が横這い圏内の動きにとどまっていることから、全体としては回復テンポが鈍化している。消費者物価は、前年比プラス幅は縮小傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きは続いている。この間、能登半島地震や海外での軍事紛争の拡大に伴う影響が懸念されるなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産や設備投資が横這い圏内の動きを続けるなか、住宅販売は減少傾向にあるものの、個人消費が引き続き堅調なことから、全体としては緩やかな回復を続けている。消費者物価は、サービス価格の上昇圧力が続いていることなどから、前年比プラス幅の縮小テンポが鈍化している。

### （参考）物価動向

〈日本〉 エネルギー価格の前年比マイナスが続き、生鮮食品を除く食料価格のプラス幅が縮小していることから、全体としての前年比プラス幅は縮小傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きは続いている。

〈米国〉 人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続くなか、食料価格が落ち着き、エネルギー価格の前年比マイナス幅が縮小していることから、全体としては前年比プラス幅の縮小テンポが鈍化している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング